

第1回 NITS 大賞（平成29年度）エントリーシート

台東区立金竜小学校

C-40

【活動名】 金竜安全の日

解決すべき課題： どんな問題を解決しましたか？

平成23年の東日本大震災から早6年が経過した。東北地方で多大な被害をもたらした災害は、東京でも交通機関の乱れなどのパニックを生み出し、学校現場においても安全推進に関する考えを改める機会となった。危機管理マニュアルの作成や避難訓練などの研修、訓練は行ってきたが、実際に発災した際にはうまく機能せず、教職員の研修や訓練の在り方を改める必要性を感じた。そこで翌年度から4月4日を「金竜安全の日」と定め研修・訓練を行っている。4月初めには、学級事務や職員会議などに時間をとられがちだが、入学式や始業式で地震や火事などの災害、不審者侵入などの事件・事故が起こらないとは限らない。そのため、児童が登校してくる前に安全に関する研修を行うことが必要だと考え、より現実的な危機的状況を想定した訓練を毎年実施している。公立学校であるために人事異動が毎年あるが、新しく赴任した教員も金竜小学校の児童を守る存在として、全教職員がマニュアルの共通理解及び実践的な訓練・経験が必要だと考えた。

目的や背景： 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

学校に子供を預けている保護者の多くは「学校は安全な場所」「子供は学校から家に帰ってくるのは当たり前」と考えている。しかし多くの学校では、4月には学級事務や職員会議が多く予定されているため、安全に関する研修や訓練は児童が登校した後に実施することが多く、またそれを「しかたがない」とする風潮があることは否めない。児童が登校してくる入学式・始業式から安全な学校生活を保障するために4月に研修・訓練を実施することが望ましい。

災害や事件・事故が起きた学校の多くは、「まさかうちでは事故（事件、災害）が起こるとは思わなかった」と他人事として災害や事故を捉えていることが少なくない。児童の安全な学校生活を保障するための第一歩として「まさかうちでは」という他人事から「もしかしたらうちでも」という自分事に全ての教員が考え方をシフトしていく必要がある。そのためには、全国で起きた事件事故、災害は自分の学校でも起こる“かも”しれない、と捉え研修や訓練の内容に組み込み実施することが必要不可欠である。

活動内容： 何をしましたか？

「研修成果活用部門」については、研修のどのような内容を活用して課題解決につなげたかがわかるように記載して下さい。

危機管理マニュアルの共通理解、普通救命講習、不審者対応訓練、校内一斉安全点検に加え、その年によって必要な訓練を安全推進委員会で検討し、研修や訓練を行っている。前年度までに行った追加研修・訓練として避難所開設訓練、避難所実地訓練、催涙スプレーの使用確認、D級ポンプの使用訓練等がある。次年度以降には、ミサイル発射を想定したマニュアルの共通理解や訓練を予定している。

普通救命講習では地域の日本堤消防署と、避難所実地訓練では台東区危機災害対策課と連携を図り、研修を行っている。研修を通して実践的な経験を積むと共に、連携の機会を重ねることで、「有事の際にもスムーズに連携できるようにする」というねらいも含まれている。



図1：普通救命講習会



図2：D級ポンプ使用訓練



図3：不審者侵入訓練



図4：避難所実地訓練

活動の成果： それによって、どんな成果が得られましたか？

4月4日を「金竜安全の日」と定め、新入生を含めた全児童が登校してくる前に危機管理研修を含む様々な研修が可能となり、全教職員がマニュアルを実践的に理解することができた。また、業務委託の主事や給食調理員などを含めた全教職員が参加して研修を行うことで共通理解が図れると共に、学校内のすべての大人が子供を守る存在としての自覚が生まれ、災害や事件・事故に対する考え方を他人事から自分事にシフトすることができた。

アピールポイント（アイデア）： もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

様々な発表の機会に「金竜安全の日」を紹介すると、4月初めの忙しい時期に、一日通して研修や訓練を行うことに「本当にできるのか」「うちではできない」と感想をいただくことがある。しかし、前述した通り児童が学校に来る前に研修・訓練を行うことは、児童を守る存在である学校として必要不可欠である。児童が明るく、元気な学校生活を送ることができるように、今後も続けていきたいと考えている。